

中学校・道徳の内容項目の解説

信頼・友情

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。	信頼・友情

●解説

全体的な理解	<p>真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底にある。それは、相手の人間的な成長を願い、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという関係である。しかし、青年前期においては、感情の起伏が激しく、ともするとささいなことから感情の行き違いが生じ、せつかくの友達関係が台無しになることもある。このような時期に、真の友情や友情の尊さについて理解を深め、これを契機に友情を一層確かなものにするよう、指導することが大切である。</p>
発達的な観点	<p>中学生の時期は、互いに心を許し合える友達を真剣に求めるようになる。また、親や教師に多くのことをゆだねてきた児童期から脱し、独立しようとする発達の段階にある。それゆえ、世代の違いによるものの考え方や価値観の違いを強く意識するようになり、同世代によき理解者を求めたり、心の底から打ち明けて話せる友達を得たいと願ったりする気持ちが高まってくる。しかし、そのため、ときには相手に無批判に同調したり、自分が傷つくことを恐れるあまり、最初から一定の距離をとった関係しかもたない者も出てくる。</p>
指導の着眼点	<p>そこで、指導に当たっては、その場だけの関心や自分に都合のいい相手とだけの狭い範囲にとどまることなく、更に視点を広げ、積極的に生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた友情を育てるよう配慮することが大切である。</p> <p>学級や学年を超えた活動を通し、豊かな人間関係を促進しながら、相手の表面的な言動だけでなく、内面的なよさに目を向け、相手の成長を心から願って互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係を育てるよう心掛ける。そして、友達のよさを発見し、信頼を基盤として成り立つ友情が人間としての生き方の自覚を深める上でいかに尊いものであるかを実感させる必要がある。たとえ、感情の行き違いや考え方の食い違いから人間関係のきしみなどが生じたとしても、互いの人格を尊敬する視点から克服することで、より一層深い友情が構築されることにも気付くように指導していくことが肝要である。</p>

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
低学年	(3) 友達と仲よくし、助け合う。 友情
中学年	(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 信頼友情
高学年	(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。 信頼友情・男女協力